

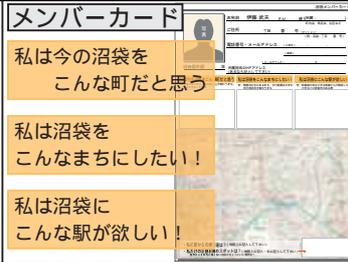


# 01

目的：沼袋の今と将来について改めて考え、他の参加者の意見を聞くことで、沼袋の魅力と課題を再発見・再認識し、沼袋への思いを共有します。

## STEP 1

『メンバーカード』に、「私は今の沼袋をこんな町だと思ふ」「私は沼袋をこんなまちにしたい!」「沼袋のお薦めスポット」などを参加者それぞれが記入しました。



## こんな議論がされました

- ・これからの勉強会の進め方。
- ・まちづくりへの個人の関わり方。 など。。

## STEP 2

STEP1で記入した『メンバーカード』を順番に発表しました。



## 成果品の例

<p>私は今の沼袋をこんな町だと思ふ</p> <p>例：緑の多いまち。地元商店街が賑わうまち。近くに公園や神社仏閣などの歴史資源が豊富である。下町と山の手が混在したまち</p>	<p>私は沼袋をこんなまちにしたい!</p> <p>例：閑静な住宅のあるまち。歩行者優先のまち。地元商店街が賑わうまち</p>	<p>私は沼袋にこんな駅が欲しい!!</p> <p>例：駅周辺にある大きな商業ビルが限られた駅。大きな駅舎がある駅。子供から高齢者、そして障害のある人に便利でやさしく利用できる駅。地域の中心として十分な機能をそなえた駅(交流、利便性、文化、情報発信地)</p>
--	---	--



## STEP 3

1/100の沼袋駅周辺の模型を見ながら議論しました。まちの魅力や課題、こんな駅になったら、などを話し合いました。



# 02

目的：普段生活しているまちを改めて歩くことで、普段気づけなかったまちの表情を発見します。その発見を大きな地図に皆で書き込み多様な視点からまちを再発見します。

## STEP 1

3つのグループに分かれて、それぞれにテーマをもったコースを、まちの人の話を聞きながら、そしてまちを観察し気になる場所の写真を撮りながら歩きました。



## こんな意見が出ました

- ・神社を結んでいた五叉路。
- ・迷った時は電車の音で場所を確認。
- ・昔は晴れた日に富士山が見えた。
- ・バスが通るには狭い駅前商店街。
- ・朝は特に開かない開かずの踏切。
- ・駅北側を流れていたどぶ川。
- ・百観音の方から聞こえる鶯の声。
- ・以前料亭や寮、屋敷があった所にミニ戸建て住宅が建ち並ぶ。 など。。

## STEP 2

グループ毎に床に敷かれた大きな地図に乗って話しをしながら、その地図の上に、撮った写真を貼ったり、まちを歩いて発見したこと・思い出したこと等を書き込みました。



## 成果品の例



## STEP 3

グループの代表者が、皆の前で議論のまとめを発表しました。



## 0.3

目的：将来（立体交差事業後）の沼袋における生活をイメージし、沼袋の将来像や目標を考えます。

## STEP 1

生活の一場面の書かれた『生活シーンカード』の中から、立体交差事業後の沼袋で「行いたい生活」と「友達が遊びに来た時に欲しい生活」を選び、または書き足してシートに貼りました。



## STEP 4

グループ毎に一人ずつシートを発表し、議論を行いました。最後にグループの代表者が、皆の前で議論のまとめを発表しました。

## STEP 2

航空写真上の、選んだカードに書かれた生活を行いたい、または行って欲しい場所に、カードと同じ内容の書かれた旗をさしました。さらにシート上にも、その場所を書き込みました。



## こんな意見が出ました

- ・寺社仏閣を巡るルート。他地区の人にも遊びに来て欲しい。
  - ・妙正寺川に蜚を復活させたい。
- など。。。

## STEP 3

旗をさした場所まで行く、または友達が沼袋まで来る交通手段のシールを選び、シートに貼りました。『目標イメージカード』の中から沼袋の目標を選び、シートに貼りました。



成果品の例

## コラム・歴史地図から沼袋をみる 第1回

早稲田大学 津久井誠人

～20年前の沼袋～

2004年6月11日の日本経済新聞の記事に、こんな見出しがあります。「西武線など20区間立体化」「都、2025年度までに」。これは、東京都が地元区市町や鉄道事業者と一体となって2025年度までに踏切対策を検討・実施していくという基本方針をまとめたというものです。

例えば、2025年度には立体化の事業が行われるとしたら、沼袋のまちはどのように変化しているのでしょうか？20年という期間を考えるにあたり、今現在と20年前にあたる昭和58年とではどのようなことが変化したかを比べてみました。

まず、20年前と現在では、建物の密度はほぼ変わっていません。沼袋の道などの基本的な骨格はすでにできており、大きな変更はありません。しかし、駅近くに大きな変化が1つありました。「中野刑務所」が「平和の森公園」+「処理場」+「マンション」に変わったことです。また、他地区でも細かく見れば、大きな屋敷がいくつかに分棟された建物に建て変わったり、新規開発ではなく、大小含めた用途変更などによって、この20年間は進んできました。

今回、行われる西武線の立体化を想定した時には、大きな敷地が生まれます。線路跡地です。これらは東西方向にとっても長く伸びており、これらの利用・開発の状況によっては沼袋のまちにこれまで20年よりも大きな変化が起こることが予想されます。大きな敷地ができるために大きな変化が生まれるということだけではなく、東西にとっても長い敷地ができるため、人の動き方にも変化が生まれます。

まちづくり勉強会に参加していると住民の方が平和の森公園を憩いの場として認識していることをとても感じます。公園ができてから20年ちょっとが経過し、今では、沼袋を代表する場所となりつつあるのではないかと感じます。これから20年後に線路跡地を活用し、なにかを創造し、これがさらに20年後には沼袋の象徴ともなれる場所になればと思います。鬼もあきれくらゐの遠い将来の話かも知れませんが、そこへ向けて今から1年1年やっていけたらと思います。（次回につづく）



図1：昭和58年地図



図2：平成15年地図

～神奈川県大和市大和駅周辺～地下化連続立体交差事業による遊歩道の整備～

大和駅は小田急江ノ島線と相模鉄道本線（相鉄線）が交わる、神奈川県大和市の中心駅です。大和駅周辺では、長年、踏切による渋滞や鉄道による市街地の分断などの問題に悩まされていました。そこで、これらの問題を解決するため、それまで地上を走っていた相鉄線を地下へ移す「地下化連続立体交差事業」を行い、あわせて、駅前広場の再整備、線路跡地の整備も行いました。これにより、踏切による渋滞や鉄道による市街地の分断などの問題が解消ただけでなく、それまでの線路跡地が主に遊歩道として整備され、人々の憩いの場となっています。また、一部には広場空間も設けられ、周辺商店街が合同してお祭り、骨董市、大道芸などのイベントを開催し賑わいを見せています。これらの取り組みは商店街にも好影響をもたらし、神奈川県商店街活性化の成功事例として取り上げられています。神奈川県大和市は、連続立体交差事業による跡地整備が既に完成している、全国的にも珍しい例で、他の事業予定地も視察に訪れています。

Data :	
区間	瀬谷～大和～相模大塚 約1km
構想	昭和41年（藤沢街道の踏切問題解消が目的。当初は高架化を予定） 昭和56年地下化都市計画決定
着工	昭和60年
完成	線路地下化平成5年8月、 遊歩道整備平成6年3月



事業前<sup>1</sup>



事業完成後



骨董市の賑わい<sup>2</sup>



事業前<sup>1</sup>



事業完成後

～東京都調布市調布駅周辺～住民参加の検討会による跡地利用の提案～

京王電鉄調布駅は、京王線と相模原線が分岐する、東京都調布市の中心駅です。調布駅は京王線と相模原線が分岐するため、踏み切りによる遮断時間が長く、周辺交通にも大きな影響が出ていました。また、京王線と相模原線が平面で分岐しているためダイヤの面においても大きなネックとなっていました。そこで、これらの問題をあわせて解決するため、調布駅周辺の連続立体交差事業が計画されました。当初は2層高架での建設が予定されていましたが、後に2層地下式に変更されています。今年、正式に事業着手が認められ、事業が現実に動き出しました。調布市においては、事業着手決定後、市民、商工会、青年会議所、若手商人塾、NPO からなる「跡地利用検討会」が活発に開かれ、何回にもわたる討議の結果、「緑、賑わい交流」をコンセプトとする「線路跡地利用プラン案」をまとめました。着手されたばかりでまだ、実際の構造物はまったく建設されていませんが、住民参加で一步先を行く事例として、また、同時に地下化される駅のうち柴崎駅及び国領駅は沼袋と規模が似ており、今後、沼袋において検討を行う際にも参考となる点が多いのではないかと考えられます。

Data :	
区間	柴崎～国領～布田～調布～西調布、調布～京王多摩川 計 3.6km
構想	昭和44年（当初は高架で都市計画決定、昭和50年～平成10年事業凍結） 平成10年新規着工準備採択、平成14年地下化都市計画決定
事業認可・着工	平成15年3月
完成予定	平成24年度頃



事業前

1 大和市役所提供

2 やまとプロムナード 古民具骨董市 (<http://www.yamato-kottouichi.jp/>) より